一茶ゆかりの里四季の俳句会（平成三十一年一～三月分）

選者　高山俳壇　松本孝夫　先生

特選 天　寄せ書きの色紙を持ちて卒業す　愛知県　平野辰美

仲好しの友達と別れ別れになり、自分の道を歩む事になる。寄せ書きは後の思い出に成る筈である。

特選 地　窓覗き玄関覗く春の猫　群馬県　竹渕洋子

春の猫は恋する時期、雪国では春とは雖も屋外に残雪が多い。恋をしたくとも外に出れない。猫の気持窺える。

特選 人　蒼天に達磨をかかげとんど組む　群馬県　鈴木百合子

どんどは正月十五日に地区の門松、注連縄を子供等が集めて焼く行事。昔乍らの行事を守る事が大事である。

入選　雛飾り色白姉妹初節句　群馬県　竹渕千恵子

入選　畦焼の煙故郷の空濁す　群馬県　篠原庄治

入選　降りながら相触れて消ゆ春の雪　群馬県　滝沢照香

入選　受験子に寄り添ふ夕餉おでん鍋　群馬県　竹渕てる子

入選　捨てられぬ端切れに思案大そうじ　群馬県　角田美重子

入選　むかし父今は夫撤く鬼の豆　群馬県　冨沢節子

入選　初声のシャープしている烏かな　宮城県　福田良光